

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103417
法人名	医療法人 天陽会
事業所名	グループホーム さくらじま
訪問調査日	平成 20 年 7 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 9 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103417		
法人名	医療法人 天陽会		
事業所名	グループホーム さくらじま		
所在地 (電話番号)	鹿児島市野尻町49-1		(電話)099-245-0818

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年7月24日	評価確定日	平成20年9月9日

## 【情報提供票より】20年7月24日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 13.6	

## (2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.3歳	最低	69歳	最高	103歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	桜島病院 中央病院 中央クリニック 福重歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜島の雄大な自然の懐に抱かれるようにホームが建てられている。隣には母体法人の協力病院があり、利用者はリハビリに通ったりデイサービスに来る地域の知人と交流したりしている。夜間や緊急時には病院との応援体制が整っており利用者も家族も安心して生活できるホームである。職員は、笑顔で接すれば利用者も笑顔になれるという思いでケアにあたり、サービスの質の向上を図る為に、職員全員が委員会に所属し積極的に活動を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、全職員に伝えミーティングで話し合いを行い改善されたものもあるが、討議がなされなかったものもあり、今後改善シート等を活用し継続的取り組みがなされることを期待します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が評価項目に目を通して、それぞれが自分の意見を書き入れ管理者がまとめあげている。評価に慣れてしまい改善努力をしていない事に気づかされたり、自己評価を通してできている事、できてないことが分かり頑張る目標となり今後のケアに活かしていこうとする姿勢がうかがえる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年度5月より2ヶ月に1回開催されている。地域の民生委員、管理者、包括支援センター職員、家族代表、施設長が参加して行われており、ホームの状況報告や行事報告などを行い、地域代表から地域の行事の情報を得ることで参加できる行事には参加している。また、包括支援センター職員よりおむつの助成制度についてのアドバイスを受たり、行事予定の情報を得ることで地域のふれあい会食に参加したりしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームの行事に合わせて年3回、家族が集まり家族会が開催され、意見や要望を聞く機会を設けている。また、面会時にはいつでも意見が言ってもらえるような、雰囲気作りを心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣近所に民家がないこともあり、隣接する病院に来られる近隣の顔見知りの人たちに気軽に立ち寄ってもらえるように声かけを行っている。また、小学校の運動会に参加したり、児童養護施設の子供たちと交流したりしている。民生委員の集会所としてホームを提供しており、地域との連携に積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心からの笑顔・自然とのふれあい・喜びのある生活を目指します」という理念を開設当初に職員と話し合っ作られている。民家をはなれていることもあり、自然(地域)になじむという意味合いにしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに大きく掲げられており、申し送り時全員で唱和し意識付けを行っている。児童養護施設の子たちと触れ合う時の心からの笑顔や野菜作り・魚つりなどの自然とのふれあいを職員は大切にしており、職員自身も笑顔で接することを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所に民家が少ないため、隣接する病院に通ってくる顔見知りの方達にホームに立ち寄ってもらえるように声かけしている。小学校の運動会に参加したり、敬老会に参加したりしている。ホームを民生委員の集会場所として提供しており、積極的に地域と関わりを持つように努めている。		地域の方々に認知症について理解してもらえるように努めて頂き、管理者が希望している今年の地域の文化祭に参加できるように期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価を回覧し、夜勤を利用し職員の意見を書き入れた後に管理者がまとめあげている。評価を通して、ケアについて振り返る機会となり、できていないことについては新たな努力目標としケアの向上を目指している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年5月より2ヶ月に1度開催している。民生委員、包括支援センター市職員、家族代表、施設長、管理者が参加して行われている。ホームの現状報告や行事報告、外部評価についても結果を報告している。地域代表から行事予定の情報を得て、ふれあい会食に参加してはどうかというアドバイスを受け各地域の会食に利用者と共に参加することができた。		

鹿児島県 グループホームさくらじま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に働きかけ運営推進会議に参加してもらえようになり、情報交換しサービスの向上につながるように取り組んでいる。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「グループホームさくらじま」が発行され利用者の日頃の写真や担当職員による近況報告が書かれ家族に送られている。預かっている金銭に関しては、金銭出納帳と領収書のコピーを送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は行事にあわせて年3回開催されており、その時には職員の異動についても報告している。また、家族の意見を聞く機会を設けている。面会時などにも、職員は積極的に家族に声をかけて意見や苦情を言ってもらえるような雰囲気作りを行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ヶ月毎にユニットの職員同士の異動を行っている。職員と利用者の相性が合わない場合のストレス軽減の為、全体的バランスを保つ為に行っている。日頃レクリエーションなど両ユニット合同で行っている為、利用者も職員を覚えており異動によるダメージはなく楽しみにしているようにも思われる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会活動が活発に行われており、全職員が委員会に所属している。外部研修についても全職員が平均して参加できるように調整しており、報告はプリントで全員が周知している。内部研修については年間計画を立てており、毎月の研修課題は職員にアンケートをとり決定している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で行っている地域ケア会議には毎月出席し意見交換を行っているが、市内グループホーム協議会の研修会には参加できていない状況にある。		桜島にはグループホームが1箇所しかなく、鹿児島市内より垂水市のグループホームとの交流をしていきたいと考えているところであり、これを機に交流を進めて頂き、職員の相互訪問を行うことでサービスの質を向上されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院や施設からの入居が多く、家族のみが見学に来られる場合が多いが、職員が病院を訪問し顔馴染みになってから入居するように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の得意分野の雑巾を縫ってもらったり、ちまき作り、切干大根作りを教えてもらったりしている。利用者から手を合わせてありがとうの言葉に心癒され、元気の素になっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で本人のしたい事を聞いたり、本人が直接いってくれたりしながら希望に添った支援ができるように取り組んでいる。希望のいえない人については、家族に聞いたり、表情や行動から判断している。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケア検討会に本人、家族も参加して出来ていること、出来ていないことなど担当者が作成した介護経過記録表をもとに話し合い介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直し前には担当者会議があり、短期目標は半年ごと経過表をみながら評価している。緊急の場合は新しいケアプラン作成の前に、小さな変化は評価表に書き込んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療体制加算により週1度看護師に来てもらい健康チェックを行っている。緊急時には往診も行っている。家族の要望があれば、通院介助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医となっている。急変時には往診もしてもらえるようになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに2件の看取りを行っており、話し合いの中で方向性を共有してきたので、終末期に向けた指針について作成している。		今まで看取りを行うことで職員のケアに対する自信にもつながってきており、家族の要望があればこれからは行なっていきたいと考えているので、家族の意向を確認するためにも同意書を作成されることを希望します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	昨年度の要改善だったので、声かけについての勉強会を行って改善に向けた努力をしているが、まだ、忙しい時などに職員が大声になってしまったり、感情的な発言をしたりするところがあるため、話し合う機会を増やしていきたいと考えている。		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけを全職員がしないように、日常的な確認と改善に向けた取り組みを継続的にこなって、サービスの質の向上につながることを期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のやりたいことを優先し、希望に添えるよう支援している。自宅に近い人が草取りをしたいと希望すると、半日自宅で過ごせるように、地域の方の応援を頂いたり、朝、ゆっくり起きて食事をする人、居室で食事する人、習字をする人、踊りが好きでボランティアの人と一緒に踊るなど、本人の希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能の低下の方が多く食事の準備活動が出来にくい状態にあるが、それぞれの力量に応じて、もやしやねぎの根きり、いんげんの筋取り、ジャガイモを切ったり、おはしを並べたり食器を片付けたりと行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の午後からはいつでも入浴ができるが、入浴日は決められている。拒否する方には無理じいをせずに声かけを工夫したり、曜日をずらしたりしている。汗をかいた時などは状況に応じてシャワー浴など対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の係りが決めてあり、箱作り、毎日のカレンダーの交換、洗濯物たたみ、花壇・畑の草取り、苗植えなどそれぞれの生活の中に出番を見出せるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのドライブインまで散歩に行ったり、週3回の食材の買出しには、2人ずつ連れて行ったり、時には、ドライブを兼ねて遠くの店まで買い物に連れて行ったりして、戸外にでかけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放された状態になっているが、玄関に出るまでのドアにチャイムがついている。外出傾向にある利用者については把握しており、見守りがなされている。近隣の協力については病院からもらっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の火山噴火対応訓練と年2回、病院と合同で1回目は病院が出火元という想定、2回目はグループホーム。以前に夜間避難訓練を行ったことがあるが、利用者がなかなか動こうとせず苦慮したこともあり、ホーム独自で避難について消防署指導のもとに勉強会を行ったりしている。台風時の停電が多く昨年発電機を備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については利用者の希望を聞き入れながら、職員が作っているが、隣接する病院の栄養士にバランスを見てもらっている。水分については、1500ccを目標にしている。水分のチェック表については作成されていないが、水分確保の必要な人には職員が注意して飲ませている。		利用者ひとり一人が1日にどれぐらいの水分を摂取しているか、食事の摂取量と同様に水分についても管理する必要性を検討されることを希望します。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外とリビングに七夕飾りがありそれぞれの願い事が書かれている。居室は朝日の当たる所と西日の当たる所があり、西日の当たる窓には遮光カーテンをかけ配慮している。リビングには、色紙で作った紫陽花の壁掛けがあり季節感を感じる居心地良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット、タンス、洗面台と備え付けになっている。自分の持ち物を持ち込んでいる部屋は多くないが、入居してから作った作品や写真などを飾ったり、家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋になっている。		